

運動の魅力に触れ、能動的に身体を動かすかせだっ子の育成

南さつま市立加世田小学校
教諭 濱田 拓也

1 はじめに

本校は、南さつま市の市街地にあり、校区内には、竹田神社、その袂を加世田川が流れ、豊かな自然に囲まれた創立154年の歴史と伝統のある学校である。現在の児童数は685人で、今後も児童数の増加が見込まれる。

学校教育目標は、「心やさしく たくましく 進んで学ぶ加世田の子どもの育成」であり、日新公以来の教育伝統が引き継がれている。

2 児童の体力・運動能力の実態

令和4年度の体力・運動能力調査では、県平均を上回った種目が全体の62.5%であった。昨年度と比較すると14.1%伸びていることから、「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進事業推進校として、2年間取り組んできた成果が表われている。

校内における「運動やスポーツに対する意識調査」では、「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童が87%で、昨年度より4%増加している。コロナ禍の中、日々の体育の学習等で、運動の魅力やできる喜びを体感できたことが要因と考える。

3 本校の研究

本校は、「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進事業推進校として、令和3年度から2年間、「運動の魅力に触れ、能動的に身体を動かすかせだっ子の育成」をテーマに研究を進めてきた。各運動特有の楽しさや喜びを感じ、児童自ら考えて身体を動かすことを目指した研究である。

(1) 研究内容Ⅰ

- ア 各領域の運動の魅力の整理
- イ 児童の実態を基にしたルールの多様化
- ウ 児童の意欲を向上させるための場の設定

(2) 研究内容Ⅱ

- ア 運動の魅力を位置付けた教材や指導計画の工夫
- イ 一単位時間の学習指導の工夫
- ウ 体力の向上を目指した準備運動の実践

(3) 研究内容Ⅲ

- ア 諸調査等を基にした実態把握と変容
- イ 体育通信による家庭との連携
- ウ 児童が主体となった取組

4 研究の実際

(1) 児童の実態を基にしたルールの多様化

4年生のゴール型ゲームにおいては、ハンドボールを基にした易しいゲームを行った。はじめのルールを設定し、毎時間の授業の中でルールの工夫について話し合い、最終的にみんなが楽しくゲームに取り組むことができるルールを設定することができた。



【写真1 話し合いの様子】

(2) 児童の意欲を向上させるための場の設定

2年生の「マットを使った運動遊び」では、単元のめあてを「マットを使った運動遊びの動きを工夫して、にんにんランドを楽しもう」とし、様々な場を設定して取り組んだ。特に、壁登りの運動は、ステージに足をかけ横に移動することや、障害物（手裏剣）を置いて、児童の意欲を高めるなど工夫を行った。



【写真2 壁登りの運動】

(3) 一単位時間の学習指導の工夫

体育の授業においては、児童が自他の課題を見付け、仲間と共に粘り強く課題の解決に取り組むとともに、自らの学習活動を振り返ることで課題を修正し、運動に取り組むことが重要である。本校では、学習過程に「ハテナタイム」、「レベルアップタイム」、「セーブタイム」を位置付け学習指導を行っている。

ア 「ハテナタイム」

運動のポイントを全体で共有し、それを基にして課題を把握できるようにする。

イ 「レベルアップタイム」

必要なコツや練習方法を、具体的に動きながら話し合わせ、繰り返し試行できるようにする。

ウ 「セーブタイム」

動きの変容や課題解決の過程を振り返り、新たな課題を設定できるようにする。

(4) 体力の向上を目指した準備運動の実践

令和3年度の体力・運動能力調査において、「握力」、「長座体前屈」が全ての学年で県平均を下回る結果となった。そこで、体育の授業の中で、準備運動や補助運動に「ストレッチング」や「手にぎにぎ運動」を取り入れ全学年で共通実践した。その結果、令和4年度は、「握力」、「長座体前屈」共に県平均を上回る学年が増え、体力の向上が図られた。



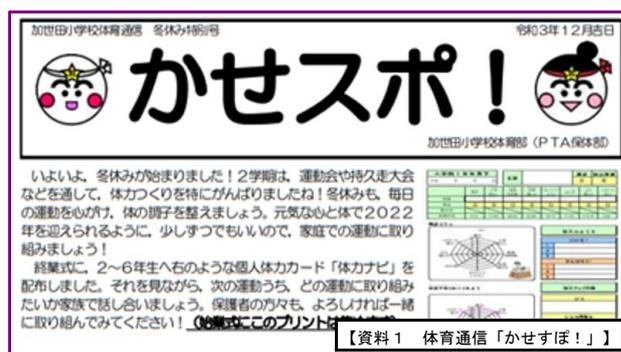
(5) 諸調査等を基にした実態把握と変容

本校では、2年、4年、5年、6年の4学年で年に2回の体力・運動能力調査を実施している。結果については、体力ナビを活用して自身の体力を把握させるとともに、体力の向上へ向けた具体的な目標をもたせている。

また、本校独自の運動や学び方に関する意識調査を実施したことで、運動やスポーツに対する意識の向上や一単位時間の学習過程の共通実践による意欲の向上など、取組の成果や課題を全職員で共通理解し、今後の指導に生かすことができた。

(6) 体育通信による家庭との連携

家庭と連携した取組を推進するために、体育通信「かせスポ！」を作成し、長期休業中の家庭での取組につなげた。



(7) 児童が主体となった取組

休み時間における運動意欲の喚起を図るために、運動委員会が主体となって、「運動遊び向上中カード」を作成した。「鉄棒・投げる・走る・遊具・縄跳び」の運動遊びを1～10級まで設定し達成した児童に合格証を渡す取組を行った。

5 成果と課題

(1) 成果

- 児童の実態を基にしたルールの多様化や場の設定を工夫することで、児童が意欲的に運動に取り組むようになった。
- 諸調査を分析し、児童の実態を把握することで、本校の課題を明確にし、体育の授業を中心に体力を高めることができた。
- 体育通信により、家庭と連携を図ることで、学校外における運動量の確保や体力の向上が図られた。

(2) 課題

- 本校においては運動する児童としない児童の二極化の傾向が見られる。運動の魅力に触れさせ、達成感や充実感を味わう体育の授業を継続していく必要がある。
- 教科外体育における運動への取組内容について検討し、児童が運動に親しむ環境づくりを行っていく必要がある。

6 おわりに

「運動大好き “かごしまっ子”」育成推進事業推進校としての取組が、児童の運動に対する意欲や体力の向上に大きくつながった。今後も継続して運動大好きな児童の育成に努めたい。